

地域再生計画（地方創生汚水処理施設整備推進交付金）事後評価調査（

都道府県名	岡山県	事業実施主体	美咲町	地域再生計画名	美咲町清流再生計画
計画期間	平成23年度～平成27年度	評価責任者	美咲町役場上下水道課長 山下一巳		

①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	指標		基準値		中間目標値		最終目標値		事後評価	最終目標値の実現状況に関する評価		
	指標1	指標2	基準年度	年度	中間実績	基準年度	直近値					
①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	指標1	汚水処理人口普及率の向上	68.6%	H22	73.0%	H25	75.7%	77.9%	H27	78.6%	○	公共下水道、浄化槽の整備を一体的に整備した効果により目標値を達成できる見込である。
	指標2	吉井川水質の改善	3mg/l	H22	2.5mg/l	H25	1.6mg/l	3mg/l	H27	1.4mg/l	○	公共下水道、浄化槽の整備を一体的に整備した効果により目標値を達成できる見込である。
②地域再生計画に記載した数値目標以外の波及効果の実現状況	指標1											
	指標2											
③事業の進捗状況	事業名		整備量（その他の事業では取組内容）			事業の進捗状況に関する評価						
			計画	中間年度（H25）	最終実績							
特別措置を適用して行う事業	公共下水道		19,600m	10,000m	13,000m	機械設備や推進工事などで工事費に予期せぬ変更があり、管渠整備以外への工事が必要となり、計画していた整備量には至らなかった。引き続き未普及地区への整備を進めていくにあたり、整備量を精査し計画を立てる必要がある。また整備に変更があった場合は整備量の変更を考えながら事業を進めていく。						
	浄化槽（個人設置型）		245基	149基	194基	年度途中で認定変更し整備量を増加したが、予想していたほど設置基数が伸びなかった。これは、消費税増税前の駆け込み需要及び増税後のその反動による減少によるものとする。今後社会情勢を見据え、環境保全を進めていくために、いかにして浄化槽設置に対する理解を進めていくかが課題である。						
その他の事業	汚水処理施設に係る広報活動		普及拡大に向け広報等でPRを実施			毎年度、広報に下水道への接続と浄化槽の設置を呼びかけている。その効果もあり着実に下水道の水洗化率や浄化槽設置基数は増加している。今後も引き続き広報活動を行いさらなる増加を見込んでいる。						
	環境保全の推進		地域や学校での環境活動			毎年小学4年生の課外活動で汚水処理施設の見学を行っている。これにより次の時代を担う子供たちへの環境保全への高い意識醸成が出来ていると考える。						
計画外で独自に実施した事業												
④評価方法												
⑤事後評価の公表方法	美咲町上下水道課のホームページに掲載。											
⑥計画全体の総合評価	本地域再生計画では汚水処理施設整備交付金を活用した公共下水道事業と浄化槽設置整備事業を一体的に実施したが、浄化槽設置整備事業は計画通りの整備量とならない見込である。しかし、下水道未普及地区への整備を進めるとともに広報等で下水道への接続、また浄化槽の設置を呼びかけた結果、汚水処理人口普及率の向上、吉井川水質の改善へと効果が発現したと考えている。浄化槽の新規設置件数が近年減少傾向であることから、消費税の増税や景気など、経済面での懸念材料があり、今後どのようにして、下水道への接続を含めた汚水処理施設の整備を促進していくかが課題である											
⑦今後の方針等	本地域再生計画においては、未普及地区への公共下水道の整備が進捗していること、また浄化槽の設置が進んでいること等から目標の達成が見込まれる。次期再生計画においても、さらなる汚水処理人口普及率の向上及び吉井川水質の改善を図るために、引き続き公共下水道整備及び浄化槽の設置促進を一体的に進めていく必要があると考える。一方、未普及地区への整備が平成29年度で終了予定であることから、今後環境保全推進のための汚水処理施設の整備のためには、戸別の下水道への接続及び浄化槽の設置が必要不可欠である。そのためにソフト事業と一体となり、町民の環境保全への高い意識形成また理解を深め、汚水処理施設の整備が促進するよう努めてまいりたい。											